



令和8年度 すさき野外博物館

しんじょう

2026. 10. 08
すさき・かわうそクラブ会報
—No.40—
発行：すさき・かわうそクラブ事務局

鳴く虫の観察会

8月29日（土）

新莊公民館にて、鳴く虫の観察会を開催しました。まずは講師の方から新莊川に生息する昆虫の生態と鳴き声について解説いただきました。音源に耳を傾け、図鑑を引いて真剣に学ばれている様子が伝わってきました。似たように聞こえる昆虫の鳴き声も、じっくり聞き比べてみると、違いがあることに気付かされます。

それから、新莊川へ向かい、実際に生息する昆虫を観察していきます。コオロギ科やマツムシ科が主に生息しており、虫取り網を持った参加者の方々は生き生きと観察に取り組んでいました。この日に多く見られたのは、セミやスズムシ、鳴き声がよく聞こえたのは、タイワンクツワムシでした。夏の終わりの夕暮れに照らされながら、観察に取り組む参加者の方々はとても輝いていました。



観察終了後には、ライトトラップを設置し、希望者のみ観察を行いました。講師の方のお手製の装置に参加者の方も気分が高まっている様子でした。

ライトトラップでは、なかなか見られなかったオスのコオロギが見られ、この日いちばんの歓声が上がっていました。夜になるまで観察に取り組んだ参加者の方々は貴重な経験を噛みしめていました。



干潟の生きもの観察会

9月26日（土）

桜川河口にて干潟の生きもの観察会を行いました。

普段は海に覆われているため、入ることができない干潟。講師の方が「干潟に来るのが初めてのひと？」と呼びかけると、参加者の大半が手を挙げていました。貴重な機会を有意義なものにしようとして、大人から子どもまで観察に意欲的に参加をされている印象でした。

実際に干潟に降りてみると、ぬかるんだ地面に足を取られる方もいましたが、そのようなアクシデントさえも楽しんでいる様子で微笑ましかったです。



1時間ほど観察をすると、採取した生きものの解説を講師の方からしていただきました。

シオマネキ、トビハゼなどといった、高知県が指定する希少野生動植物をはじめ、たくさん生きものの生態やオーストメスの見分け方などを解説いただきました。講師の方の話を聞きながら、図鑑を引いたり、実際の生きものを見つめたりする参加者の方々の様子が印象的でした。普段はなかなか足を運べない干潟に行ったことで、知識欲が刺激されたのだと思います。心配された天候も持ちこたえ、終了後もしばらく採取した生きものを見ている参加者もあり、イベントの満足度の高さがうかがえました。

